

## 高等学校学習指導要領比較対照表【英語（専門教科）】

改 訂（平成30年告示）	現 行（平成21年告示）
<p>第3章 主として専門学科において開設される各教科</p> <p style="margin-left: 40px;">第13節 英 語</p> <p style="margin-left: 80px;">第1款 目 標</p> <p>外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、英語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動及びこれらを結び付けた統合的な言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 英語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的话题や社会的な話題について、英語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。</p> <p>(3) 英語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に英語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。</p>	<p>第3章 主として専門学科において開設される各教科</p> <p style="margin-left: 40px;">第13節 英 語</p> <p style="margin-left: 80px;">第1款 目 標</p> <p>英語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりするコミュニケーション能力を養う。</p>
第2款 各 科 目	第2款 各 科 目

## 第1 総合英語 I

### 1 目標

英語学習の特質を踏まえ、以下に示す、聞くこと、読むこと、話すこと [やり取り]、話すこと [発表]、書くことの五つの領域 (以下この節において「五つの領域」という。) 別に設定する目標の実現を目指した指導を通して、第1款の(1)及び(2)に示す資質・能力を一体的に育成するとともに、その過程を通して、第1款の(3)に示す資質・能力を育成する。

#### (1) 聞くこと

ア 日常的な話題について、話される速さや、使用される語句や文、情報量などにおいて、一定の支援を活用すれば、必要な情報を聞き取り、話し手の意図を把握することができるようにする。

イ 社会的な話題について、話される速さや、使用される語句や文、情報量などにおいて、一定の支援を活用すれば、必要な情報を聞き取り、概要や要点を目的に応じて捉えることができるようにする。

#### (2) 読むこと

ア 日常的な話題について、使用される語句や文、情報量などにおいて、一定の支援を活用すれば、必要な情報を読み取り、書き手の意図を把握することができるようにする。

イ 社会的な話題について、使用される語句や文、情報量などにおいて、一定の支援を活用すれば、必要な情報を読み取り、概要や要点を目的に応じて捉えることができるようにする。

#### (3) 話すこと [やり取り]

ア 日常的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、一定の支援を活用すれば、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを伝え合うやり取りを続けることができるようにする。

イ 社会的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、一定の支援を活用すれば、聞いたり読んだりしたことを基に、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して伝え合う

## 第1 総合英語

### 1 目標

英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする能力を一層伸ばし、社会生活において活用できるようにする。(再掲あり)

ことができるようにする。

(4) 話すこと [発表]

ア 日常的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、一定の支援を活用すれば、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して伝えることができるようにする。

イ 社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、一定の支援を活用すれば、聞いたり読んだりしたことを基に、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して伝えることができるようにする。

(5) 書くこと

ア 日常的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、一定の支援を活用すれば、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して伝える文章を書くことができるようにする。

イ 社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、一定の支援を活用すれば、聞いたり読んだりしたことを基に、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して伝える文章を書くことができるようにする。

## 2 内 容

[知識及び技能]

(1) 英語の特徴やきまりに関する事項

第2章第8節第2款の第1の「英語コミュニケーションⅠ」（以下この節において「英語コミュニケーションⅠ」という。）の2の(1)に示す事項について、五つの領域別の目標を達成するように発展、拡充させて取り扱うものとする。

[思考力、判断力、表現力等]

(2) 情報を整理しながら考えなどを形成し、英語で表現したり、伝え合ったりすることに関する事項

「英語コミュニケーションⅠ」の2の(2)に示す事項について、五つの

## 3 内容の取扱い

(1) 指導に当たっては、第2章第8節第2の「コミュニケーション英語Ⅰ」、第3の「コミュニケーション英語Ⅱ」及び第4の「コミュニケーション英語Ⅲ」の内容等を参照し、必要に応じて、これらの科目の内容を発展、拡充させて取り扱うものとする。(再掲あり)

域別の目標を達成するように取り扱うものとする。

### (3) 言語活動及び言語の働きに関する事項

#### ① 言語活動に関する事項

(2)に示す事項については、(1)に示す事項を活用して、例えば、次のような五つの領域別の言語活動及び複数の領域を結び付けた統合的な言語活動を通して指導する。

#### ア 聞くこと

(ア) 日常的な話題について、必要に応じて、話される速さを調整されたり、別の語句や文での言い換えを聞いたりしながら、対話や放送などから必要な情報を聞き取り、話し手の意図を把握する活動。また、聞き取った内容を話したり書いたりして伝え合う活動。

(イ) 社会的な話題について、必要に応じて、話される速さを調整されたり、別の語句や文での言い換えを聞いたりしながら、対話や説明などから必要な情報を聞き取り、概要や要点を把握する活動。また、聞き取った内容を話したり書いたりして伝え合う活動。

#### イ 読むこと

(ア) 日常的な話題について、必要に応じて、別の語句や文での言い換えや、書かれている文章の背景に関する説明などを聞いたり読んだりしながら、電子メールやパンフレットなどから必要な情報を読み取り、書き手の意図を把握する活動。また、読み取った内容を話したり書いたりして伝え合う活動。

(イ) 社会的な話題について、必要に応じて、別の語句や文での言い換えや、書かれている文章の背景に関する説明などを聞いたり読んだりしながら、説明文や論証文などから必要な情報を読み取り、概要や要点を把握する活動。また、読み取った内容を話したり書いたりして伝え合う活動。

#### ウ 話すこと [やり取り]

(ア) 日常的な話題について、必要に応じて、別の語句や文での言い換

## 2 内容

(2) 聴解 (再掲あり)

(5) 読解 (再掲あり)

(3) 対話 (再掲あり)

えや、書かれている文章の背景に関する説明などを聞いたり読んだりしながら、電子メールやパンフレットなどから必要な情報を読み取り、書き手の意図を把握する活動。また、読み取った内容を話したり書いたりして伝え合う活動。

- (イ) 社会的な話題について、必要に応じて、別の語句や文での言い換えや、書かれている文章の背景に関する説明などを聞いたり読んだりしながら、説明文や論証文などから必要な情報を読み取り、概要や要点を把握する活動。また、読み取った内容を話したり書いたりして伝え合う活動。

#### エ 話すこと [発表]

- (ア) 身近な出来事や家庭生活などの日常的な話題について、必要に応じて、使用する語句や文、発話例が示されたり、準備のための一定の時間が確保されたりする状況で、情報や考え、気持ちなどを理由や根拠とともに伝える活動。また、発表した内容について、質疑応答をしたり、意見や感想を伝え合ったりする活動。

- (イ) 社会的な話題について、必要に応じて、使用する語句や文、発話例が示されたり、準備のための一定の時間が確保されたりする状況で、対話や説明などを聞いたり読んだりして、情報や考え、気持ちなどを理由や根拠とともに伝える活動。また、発表した内容について、質疑応答をしたり、意見や感想を伝え合ったりする活動。

#### オ 書くこと

- (ア) 身近な出来事や家庭生活などの日常的な話題について、必要に応じて、使用する語句や文、文章例が示されたり、準備のための一定の時間が確保されたりする状況で、情報や考え、気持ちなどを理由や根拠とともに伝える段落を書く活動。また、書いた内容を読み合い、質疑応答をしたり、意見や感想を伝え合ったりする活動。

- (イ) 社会的な話題について、必要に応じて、使用する語句や文、文章例が示されたり、準備のための一定の時間が確保されたりする状況

#### (4) スピーチ (再掲あり)

#### (6) 作文 (再掲あり)

で、対話や説明などを聞いたり読んだりして、情報や考え、気持ちなどを理由や根拠とともに伝える段落を書く活動。また、書いた内容を読み合い、質疑応答をしたり、意見や感想を伝え合ったりする活動。

② 言語の働きに関する事項

「英語コミュニケーションⅠ」の2の(3)の②と同様に取り扱うものとする。

3 内容の取扱い

第2章第8節第2款の第2の「英語コミュニケーションⅡ」（以下この節において「英語コミュニケーションⅡ」という。）の3と同様に取り扱うものとする。

第2 総合英語Ⅱ

1 目標

英語学習の特質を踏まえ、以下に示す、五つの領域別に設定する目標の実現を目指した指導を通して、第1款の(1)及び(2)に示す資質・能力を一体的に育成するとともに、その過程を通して、第1款の(3)に示す資質・能力を育成する。

(1) 聞くこと

ア 日常的な話題について、話される速さや、使用される語句や文、情報量などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、必要な情報を聞き取り、話の展開や話し手の意図を把握することができるようにする。

イ 社会的な話題について、話される速さや、使用される語句や文、情報量などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、必要な情報を聞き取り、概要や要点、詳細を目的に応じて捉えることができるようにする。

(2) 読むこと

ア 日常的な話題について、使用される語句や文、情報量などにおいて、

3 内容の取扱い

(2) 中学校におけるコミュニケーション能力の基礎を養うための総合的な指導を踏まえ、聞いたことや読んだことを踏まえた上で話したり書いたりする言語活動を適切に取り入れながら、四つの領域の言語活動を有機的に関連付けつつ総合的に指導するものとする。(再掲あり)

第1 総合英語

1 目標

英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする能力を一層伸ばし、社会生活において活用できるようにする。(再掲)

支援をほとんど活用しなくても、必要な情報を読み取り、文章の展開や書き手の意図を把握することができるようにする。

イ 社会的な話題について、使用される語句や文、情報量などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、必要な情報を読み取り、概要や要点、詳細を目的に応じて捉えることができるようにする。

### (3) 話すこと [やり取り]

ア 日常的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、情報や考え、気持ちなどを詳しく伝え合うやり取りを続けることができるようにする。

イ 社会的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、聞いたり読んだりしたことを基に、多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して詳しく伝え合うことができるようにする。

### (4) 話すこと [発表]

ア 日常的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して詳しく伝えることができるようにする。

イ 社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、聞いたり読んだりしたことを基に、多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して詳しく伝えることができるようにする。

### (5) 書くこと

ア 日常的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して

詳しく伝える複数の段落から成る文章を書くことができるようにする。

イ 社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、聞いたり読んだりしたことを基に、多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して詳しく伝える複数の段落から成る文章を書くことができるようにする。

## 2 内容

[知識及び技能]

### (1) 英語の特徴やきまりに関する事項

「英語コミュニケーションⅡ」の2の(1)に示す事項について、五つの領域別の目標を達成するように発展、拡充させて取り扱うものとする。

[思考力、判断力、表現力等]

### (2) 情報を整理しながら考えなどを形成し、英語で表現したり、伝え合ったりすることに関する事項

「英語コミュニケーションⅠ」の2の(2)に示す事項について、五つの領域別の目標を達成するように取り扱うものとする。

### (3) 言語活動及び言語の働きに関する事項

#### ① 言語活動に関する事項

(2)に示す事項については、(1)に示す事項を活用して、例えば、次のような五つの領域別の言語活動及び複数の領域を結び付けた統合的な言語活動を通して指導する。

ア 「総合英語Ⅰ」及び「英語コミュニケーションⅠ」のそれぞれの2の(3)の①に示す言語活動のうち、これらの科目における学習内容の定着を図るために必要なもの。

#### イ 聞くこと

(ア) 日常的な話題について、対話やスピーチなどから必要な情報を聞き取り、話の展開や話し手の意図を把握する活動。また、聞き取った内容を基に考えをまとめ、話したり書いたりして伝え合う活動。

## 3 内容の取扱い

(1) 指導に当たっては、第2章第8節第2の「コミュニケーション英語Ⅰ」、第3の「コミュニケーション英語Ⅱ」及び第4の「コミュニケーション英語Ⅲ」の内容等を参照し、必要に応じて、これらの科目の内容を発展、拡充させて取り扱うものとする。(再掲)

## 2 内容

(2) 聴解 (再掲)



(イ) 社会的な話題について、説明や討論などから必要な情報を聞き取り、概要や要点、詳細を把握する活動。また、聞き取った内容を基に考えをまとめ、話したり書いたりして伝え合う活動。

ウ 読むこと

(ア) 日常的な話題について、新聞記事や広告などから必要な情報を読み取り、文章の展開や書き手の意図を把握する活動。また、読み取った内容を基に考えをまとめ、話したり書いたりして伝え合う活動。

(イ) 社会的な話題について、論説文や報告文などから必要な情報を読み取り、概要や要点、詳細を把握する活動。また、読み取った内容を基に考えをまとめ、話したり書いたりして伝え合う活動。

エ 話すこと [やり取り]

(ア) 関心のある事柄や学校生活などの日常的な話題について、情報や考え、気持ちなどを詳しく伝え合う活動。また、やり取りした内容を整理して発表したり、文章を書いたりする活動。

(イ) 社会的な話題について、説明や討論などを聞いたり読んだりして、賛成や反対の立場から、情報や考え、気持ちなどを理由や根拠とともに詳しく伝え合う活動。また、やり取りした内容を踏まえて、自分自身の考えなどを整理して発表したり、文章を書いたりする活動。

オ 話すこと [発表]

(ア) 関心のある事柄や学校生活などの日常的な話題について、情報や考え、気持ちなどを理由や根拠とともに詳しく伝える活動。また、発表した内容について、質疑応答をしたり、意見や感想を伝え合ったりする活動。

(イ) 社会的な話題について、説明や討論などを聞いたり読んだりして、情報や考え、気持ちなどを理由や根拠とともに詳しく伝える活動。また、発表した内容について、質疑応答をしたり、意見や感想を伝え合ったりする活動。

カ 書くこと

(ア) 関心のある事柄や学校生活などの日常的な話題について、情報や

(5) 読解 (再掲)

(3) 対話 (再掲)

(4) スピーチ (再掲)

(6) 作文 (再掲)

考え、気持ちなどを理由や根拠とともに詳しく伝える複数の段落を書く活動。また、書いた内容を読み合い、質疑応答をしたり、意見や感想を伝え合ったりする活動。

(イ) 社会的な話題について、説明や討論などを聞いたり読んだりして、情報や考え、気持ちなどを理由や根拠とともに詳しく伝える複数の段落を書く活動。また、書いた内容を読み合い、質疑応答をしたり、意見や感想を伝え合ったりする活動。

② 言語の働きに関する事項

「英語コミュニケーションⅠ」の2の(3)の②と同様に取り扱うものとする。

3 内容の取扱い

「英語コミュニケーションⅡ」の3と同様に取り扱うものとする。

3 内容の取扱い

(2) 中学校におけるコミュニケーション能力の基礎を養うための総合的な指導を踏まえ、聞いたことや読んだことを踏まえた上で話したり書いたりする言語活動を適切に取り入れながら、四つの領域の言語活動を有機的に関連付けつつ総合的に指導するものとする。(再掲)

第3 総合英語Ⅲ

1 目標

英語学習の特質を踏まえ、以下に示す、五つの領域別に設定する目標の実現を目指した指導を通して、第1款の(1)及び(2)に示す資質・能力を一体的に育成するとともに、その過程を通して、第1款の(3)に示す資質・能力を育成する。

(1) 聞くこと

ア 日常的な話題について、話される速さや、使用される語句や文、情報量などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、必要な情報を正確に聞き取り、話の展開や話し手の意図を把握することができるようにする。

イ 社会的な話題について、話される速さや、使用される語句や文、情報量などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、話の展開に注意しな

第1 総合英語

1 目標

英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする能力を一層伸ばし、社会生活において活用できるようにする。(再掲)

がら必要な情報を聞き取り，幅広い視点から，概要や要点，詳細を目的に応じて捉えることができるようにする。

(2) 読むこと

ア 日常的な話題について，使用される語句や文，情報量などにおいて，支援をほとんど活用しなくても，必要な情報を正確に読み取り，文章の展開や書き手の意図を把握することができるようにする。

イ 社会的な話題について，使用される語句や文，情報量などにおいて，支援をほとんど活用しなくても，文章の展開に注意しながら必要な情報を読み取り，幅広い視点から，概要や要点，詳細を目的に応じて捉えることができるようにする。

(3) 話すこと [やり取り]

ア 日常的な話題について，使用する語句や文，対話の展開などにおいて，支援をほとんど活用しなくても，多様な語句や文を目的や場面，状況などに応じて効果的に用いて，情報や考え，気持ちなどを詳しく伝え合うやり取りを続け，会話を発展させることができるようにする。

イ 社会的な話題について，使用する語句や文，対話の展開などにおいて，支援をほとんど活用しなくても，聞いたり読んだりしたことを基に，多様な語句や文を目的や場面，状況などに応じて効果的に用いて，情報や考え，課題の解決策などを，幅広い視点から，論理的に詳しく伝え合うことができるようにする。

(4) 話すこと [発表]

ア 日常的な話題について，使用する語句や文，事前の準備などにおいて，支援をほとんど活用しなくても，多様な語句や文を目的や場面，状況などに応じて効果的に用いて，情報や考え，気持ちなどを，幅広い視点から，論理的に詳しく伝えることができるようにする。

イ 社会的な話題について，使用する語句や文，事前の準備などにおいて，支援をほとんど活用しなくても，聞いたり読んだりしたことを基に，多様な語句や文を目的や場面，状況などに応じて効果的に用いて，情報や考え，気持ちなどを，幅広い視点から，論理的に詳しく伝えることがで

きるようにする。

(5) 書くこと

ア 日常的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて効果的に用いて、情報や考え、気持ちなどを、幅広い視点から、論理的に詳しく伝える複数の段落から成る文章を書くことができるようにする。

イ 社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、聞いたり読んだりしたことを基に、多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて効果的に用いて、情報や考え、気持ちなどを、幅広い視点から、論理的に詳しく伝える複数の段落から成る文章を書くことができるようにする。

2 内 容

[知識及び技能]

(1) 英語の特徴やきまりに関する事項

第2章第8節第2款の第3の「英語コミュニケーションⅢ」（以下この節において「英語コミュニケーションⅢ」という。）の2の(1)に示す事項について、五つの領域別の目標を達成するように発展、拡充させて取り扱うものとする。

[思考力、判断力、表現力等]

(2) 情報を整理しながら考えなどを形成し、英語で表現したり、伝え合ったりすることに関する事項

「英語コミュニケーションⅠ」の2の(2)に示す事項について、五つの領域別の目標を達成するように取り扱うものとする。

(3) 言語活動及び言語の働きに関する事項

① 言語活動に関する事項

(2)に示す事項については、(1)に示す事項を活用して、例えば、次のような五つの領域別の言語活動及び複数の領域を結び付けた統合的な言

3 内容の取扱い

(1) 指導に当たっては、第2章第8節第2の「コミュニケーション英語Ⅰ」、第3の「コミュニケーション英語Ⅱ」及び第4の「コミュニケーション英語Ⅲ」の内容等を参照し、必要に応じて、これらの科目の内容を発展、拡充させて取り扱うものとする。(再掲)

語活動を通して指導する。

ア 「総合英語Ⅰ」及び「総合英語Ⅱ」のそれぞれの2の(3)の①に示す言語活動のうち、これらの科目における学習内容の定着を図るために必要なもの。

#### イ 聞くこと

(ア) 日常的な話題について、インタビューやニュースなどから必要な情報を正確に聞き取り、話の展開や話し手の意図を把握する活動。また、聞き取った内容について、質疑応答をしたり、意見や感想を伝え合ったりする活動。

(イ) 社会的な話題について、複数のニュースや講演などから話の展開に注意しながら必要な情報を聞き取り、複数の視点を整理、比較して、概要や要点、詳細を把握する活動。また、聞き取った内容について、質疑応答をしたり、意見や感想を伝え合ったりする活動。

#### ウ 読むこと

(ア) 日常的な話題について、新聞記事や物語などから必要な情報を正確に読み取り、文章の展開や書き手の意図を把握する活動。また、読み取った内容について、質疑応答をしたり、意見や感想を伝え合ったりする活動。

(イ) 社会的な話題について、複数の論証文や記録文などから文章の展開に注意し、課題を解決するために必要な情報を読み取り、複数の視点を整理、比較して、概要や要点、詳細をまとめる活動。また、まとめた内容を基に解決策を考え、話したり書いたりして伝え合う活動。

#### エ 話すこと [やり取り]

(ア) 学校外での生活や地域社会などの日常的な話題について、情報や考え、気持ちなどを詳しく伝え合い、会話を発展させる活動。また、やり取りした内容を整理して発表したり、文章を書いたりする活動。

(イ) 社会的な話題について、ニュースや講演などを聞いたり読んだりして、情報や考え、課題の解決策などを、複数の情報を整理、比較

## 2 内容

(2) 聴解 (再掲)

(5) 読解 (再掲)

(3) 対話 (再掲)

しながら、明確な理由や根拠とともに詳しく伝え合う活動。また、やり取りした内容を踏まえて、自分自身の考えなどを整理して発表したり、文章を書いたりする活動。

#### オ 話すこと [発表]

(ア) 学校外での生活や地域社会などの日常的な話題について、情報や考え、気持ちなどを、複数の情報を整理、比較しながら、明確な理由や根拠とともに詳しく伝える活動。また、発表した内容について、質疑応答をしたり、意見や感想を伝え合ったりする活動。

(イ) 社会的な話題について、ニュースや講演などを聞いたり読んだりして、情報や考え、気持ちなどを、複数の情報を整理、比較した上で自分自身の立場を明らかにしながら、明確な理由や根拠とともに詳しく伝える活動。また、発表した内容について、質疑応答をしたり、意見や感想を伝え合ったりする活動。

#### カ 書くこと

(ア) 学校外での生活や地域社会などの日常的な話題について、情報や考え、気持ちなどを、複数の情報を整理、比較しながら、明確な理由や根拠とともに詳しく伝える複数の段落を書く活動。また、書いた内容を読み合い、質疑応答をしたり、意見や感想を伝え合ったりする活動。

(イ) 社会的な話題について、ニュースや講演などを聞いたり読んだりして、情報や考え、気持ちなどを、複数の情報を整理、比較した上で自分自身の立場を明らかにしながら、明確な理由や根拠とともに詳しく伝える複数の段落を書く活動。また、書いた内容を読み合い、質疑応答をしたり、意見や感想を伝え合ったりする活動。

#### ② 言語の働きに関する事項

「英語コミュニケーションⅠ」の2の(3)の②と同様に取り扱うものとする。

### 3 内容の取扱い

(4) スピーチ (再掲)

(6) 作文 (再掲)

### 3 内容の取扱い

「英語コミュニケーションⅡ」の3と同様に取り扱うものとする。

(2) 中学校におけるコミュニケーション能力の基礎を養うための総合的な指導を踏まえ、聞いたことや読んだことを踏まえた上で話したり書いたりする言語活動を適切に取り入れながら、四つの領域の言語活動を有機的に関連付けつつ総合的に指導するものとする。(再掲)

#### 第4 ディベート・ディスカッションⅠ

##### 1 目標

英語学習の特質を踏まえ、以下に示す、話すこと〔やり取り〕の領域において設定する目標の実現を目指した指導を通して、第1款の(1)及び(2)に示す資質・能力を一体的に育成するとともに、その過程を通して、第1款の(3)に示す資質・能力を育成する。

##### (1) 話すこと〔やり取り〕

ア 日常的な話題や社会的な話題に関する論題について、使用する語句や文、議論の展開などにおいて、一定の支援を活用すれば、資料を的確に活用し、多様な語句や文を用いて、賛成又は反対の立場をとった上で、論理的に一貫性のある議論を展開することができるようにする。

イ 日常的な話題や社会的な話題について、使用する語句や文、議論の展開などにおいて、一定の支援を活用すれば、資料を的確に活用し、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理の構成や展開を工夫して詳しく伝え合うことができるようにする。

##### 2 内容

〔知識及び技能〕

##### (1) 英語の特徴やきまりに関する事項

第2章第8節第2款の第4の「論理・表現Ⅰ」(以下この節において「論理・表現Ⅰ」という。)の2の(1)に示す事項について、この科目の1に示す、話すこと〔やり取り〕の領域における目標を達成するように取り扱うものとする。

〔思考力、判断力、表現力等〕

#### 第3 英語表現

##### 1 目標

英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、事実や意見などを多様な観点から考察し、論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える能力を一層伸ばす。(再掲あり)

##### 3 内容の取扱い

(1) 指導に当たっては、第2章第8節第5の「英語表現Ⅰ」及び第6の「英語表現Ⅱ」の内容等を参照し、必要に応じて、これらの科目の内容を発展、拡充させて取り扱うものとする。(再掲あり)

(2) 情報を整理しながら考えなどを形成し、英語で表現したり、伝え合ったりすることに関する事項

具体的な課題等を設定し、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、情報を整理しながら考えなどを形成し、これらを論理的に適切な英語で表現することを通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 日常的な話題や社会的な話題について、伝える内容を整理し、英語で話したり書いたりして、要点や意図、論理の展開などを明確にしながら、情報や自分自身の考えなどを話して伝え合うこと。

(3) 言語活動及び言語の働きに関する事項

① 言語活動に関する事項

(2)に示す事項については、(1)に示す事項を活用して、例えば、次のような話すこと〔やり取り〕の言語活動及び複数の領域を結び付けた統合的な言語活動を通して指導する。

ア 話すこと〔やり取り〕

(ア) 日常的な話題や社会的な話題に関する論題について、必要に応じて、使用する語句や文、やり取りの具体的な進め方が示される状況で、論証文や英文資料などを読んで、論点を整理するとともに、それらを活用して自説の優位性を示す情報や考えを詳しく伝え合ったり、相手の意見に質問や反論したりするディベートをする活動。また、やり取りした内容を踏まえて、自分自身の考えなどを整理して発表したり、文章を書いたりする活動。

(イ) 日常的な話題や社会的な話題について、必要に応じて、使用する語句や文、やり取りの具体的な進め方が示される状況で、スピーチや講義、英文資料などを聞いたり読んだりして、論点を整理するとともに、それらを活用して情報や自分自身の考えを適切な理由や根拠とともに詳しく伝えたり、他者の意見に適切に応じたりするディスカッションをする活動。また、議論した内容を踏まえて、自分自

## 2 内容

(5) ディベート（再掲あり）

(6) ディスカッション（再掲あり）



身の考えなどを整理して発表したり，文章を書いたりする活動。

② 言語の働きに関する事項

「英語コミュニケーションⅠ」の2の(3)の②と同様に取り扱うものとする。

3 内容の取扱い

- (1) コミュニケーションを図る資質・能力を育成するためのこれまでの総合的な指導を踏まえ，ディベートやディスカッションなどの言語活動を中心に，情報や考えなどを伝え合う能力の向上を図るように指導するものとする。
- (2) 指導に当たっては，「論理・表現Ⅰ」及び第2章第8節第2款の第5の「論理・表現Ⅱ」（以下この節において「論理・表現Ⅱ」という。）の内容などを参照し，スピーチやプレゼンテーションについても，適宜指導するものとする。

(新設)

- (3) スピーチ（再掲あり）  
(4) プレゼンテーション（再掲あり）

第5 ディベート・ディスカッションⅡ

1 目標

英語学習の特質を踏まえ，以下に示す，話すこと〔やり取り〕の領域において設定する目標の実現を目指した指導を通して，第1款の(1)及び(2)に示す資質・能力を一体的に育成するとともに，その過程を通して，第1款の(3)に示す資質・能力を育成する。

(1) 話すこと〔やり取り〕

ア 社会的な話題に関する論題について，使用する語句や文，議論の展開などにおいて，支援をほとんど活用しなくても，複数の資料を的確に活用し，多様な語句や文を目的や場面，状況などに応じて効果的に用いて，賛成又は反対の立場をとった上で，聞き手を説得することができるよう，論理的に一貫性のある議論をすることができるようにする。

イ 社会的な話題について，使用する語句や文，議論の展開などにおいて，支援をほとんど活用しなくても，複数の資料を的確に活用し，多様な語

第3 英語表現

1 目標

英語を通じて，積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに，事実や意見などを多様な観点から考察し，論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える能力を一層伸ばす。（再掲）

句や文を目的や場面、状況などに応じて効果的に用いて、課題の解決策などについて合意形成することができるよう、他者の意見などに配慮しながら自分自身の意見や主張などを詳しく伝え合うことができるようにする。

## 2 内 容

[知識及び技能]

### (1) 英語の特徴やきまりに関する事項

「ディベート・ディスカッションⅠ」の2の(1)と同様に取り扱うものとする。

[思考力、判断力、表現力等]

### (2) 情報を整理しながら考えなどを形成し、英語で表現したり、伝え合ったりすることに関する事項

「ディベート・ディスカッションⅠ」の2の(2)に示す事項について、この科目の1に示す、話すこと〔やり取り〕の領域における目標を達成するように取り扱うものとする。

### (3) 言語活動及び言語の働きに関する事項

#### ① 言語活動に関する事項

(2)に示す事項については、(1)に示す事項を活用して、例えば、次のような話すこと〔やり取り〕の言語活動及び複数の領域を結び付けた統合的な言語活動を通して指導する。

ア 「ディベート・ディスカッションⅠ」の2の(3)の①に示す言語活動のうち、「ディベート・ディスカッションⅠ」における学習内容の定着を図るために必要なもの。

#### イ 話すこと〔やり取り〕

(ア) 社会的な話題に関する論題についての複数の論証文や英文資料などを読んで、論点を整理するとともに、それらを活用して自説の優位性を効果的に示したり、相手の議論に応じて、適切な質問や反論をしたりして聞き手を説得するディベートをする活動。また、やり

## 3 内容の取扱い

(1) 指導に当たっては、第2章第8節第5の「英語表現Ⅰ」及び第6の「英語表現Ⅱ」の内容等を参照し、必要に応じて、これらの科目の内容を発展、拡充させて取り扱うものとする。(再掲)

## 2 内 容

(5) ディベート (再掲)

取りした内容を踏まえて、自分自身の考えなどを整理して発表したり、文章を書いたりする活動。

(イ) 社会的な話題について、複数のスピーチや講義、英文資料などを聞いたり読んだりして、論点の共通点や相違点を整理、比較するとともに、課題の解決策などを効果的な理由や根拠とともに詳しく伝え合い、他者の意見に適切に応じて最善の解決策をまとめるためのディスカッションをする活動。また、議論した内容を踏まえて、自分自身の考えなどを整理して発表したり、文章を書いたりする活動。

② 言語の働きに関する事項

「英語コミュニケーションⅠ」の2の(3)の②と同様に取り扱うものとする。

3 内容の取扱い

(1) 「ディベート・ディスカッションⅠ」の3の(1)と同様に取り扱うものとする。

(2) 指導に当たっては、「論理・表現Ⅱ」及び第2章第8節第2款の第6の「論理・表現Ⅲ」（以下この節において「論理・表現Ⅲ」という。）の内容などを参照し、スピーチやプレゼンテーションについても、適宜指導するものとする。

第6 エッセイライティングⅠ

1 目標

英語学習の特質を踏まえ、以下に示す、書くことの領域において設定する目標の実現を目指した指導を通して、第1款の(1)及び(2)に示す資質・能力を一体的に育成するとともに、その過程を通して、第1款の(3)に示す資質・能力を育成する。

(1) 書くこと

ア 日常的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、一定の支援を活用すれば、資料を的確に活用し、多様な語句や文を用い

(6) ディスカッション（再掲）

（新設）

(3) スピーチ（再掲）

(4) プレゼンテーション（再掲）

第3 英語表現

1 目標

英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、事実や意見などを多様な観点から考察し、論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える能力を一層伸ばす。（再掲）

て、情報や考え、気持ちなどを、論理の構成や展開を工夫して詳しく伝える複数の段落から成る文章を書くことができるようにする。

イ 社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、一定の支援を活用すれば、資料を的確に活用し、多様な語句や文を用いて、意見や主張などを、論理の構成や展開を工夫して詳しく伝える複数の段落から成る文章を書くことができるようにする。

## 2 内容

[知識及び技能]

### (1) 英語の特徴やきまりに関する事項

「論理・表現Ⅰ」の2の(1)に示す事項について、この科目の1に示す、書くことの領域における目標を達成するように取り扱うものとする。

[思考力、判断力、表現力等]

### (2) 情報を整理しながら考えなどを形成し、英語で表現したり、伝え合ったりすることに関する事項

具体的な課題等を設定し、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、情報を整理しながら考えなどを形成し、これらを論理的に適切な英語で表現することを通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 日常的な話題や社会的な話題について、英語を聞いたり読んだりして得られた情報や考えなどを活用しながら、情報や自分自身の考えなどを書いて適切に表現すること。

### (3) 言語活動及び言語の働きに関する事項

#### ① 言語活動に関する事項

(2)に示す事項については、(1)に示す事項を活用して、例えば、次のような書くことの言語活動及び複数の領域を結び付けた統合的な言語活動を通して指導する。

## 3 内容の取扱い

(1) 指導に当たっては、第2章第8節第5の「英語表現Ⅰ」及び第6の「英語表現Ⅱ」の内容等を参照し、必要に応じて、これらの科目の内容を発展、拡充させて取り扱うものとする。(再掲)

ア 書くこと

(ア) 日常的な話題について、必要に応じて、使用する語句や文、文章例が示されたり、準備のための一定の時間が確保されたりする状況で、ニュースや新聞記事などを聞いたり読んだりして、論点を整理した上で、それらを活用して情報や考え、気持ちなどを、適切な理由や根拠とともに詳しく伝える複数の段落を書く活動。また、書いた内容を読み合い、質疑応答をしたり、意見や感想を伝え合ったりする活動。

(イ) 社会的な話題について、必要に応じて、使用する語句や文、文章例が示されたり、準備のための一定の時間が確保されたりする状況で、スピーチや講義、英文資料などを聞いたり読んだりして、論点を整理した上で、それらを活用して意見や主張などを、適切な理由や根拠とともに詳しく伝える複数の段落を書く活動。また、書いた内容を読み合い、質疑応答をしたり、意見や感想を伝え合ったりする活動。

② 言語の働きに関する事項

「英語コミュニケーションⅠ」の2の(3)の②と同様に取り扱うものとする。

3 内容の取扱い

(1) コミュニケーションを図る資質・能力を育成するためのこれまでの総合的な指導を踏まえ、文章を書くことなどの言語活動を中心に、情報や考えなどを表現する能力の向上を図るように指導するものとする。

(2) 指導に当たっては、「論理・表現Ⅰ」及び「論理・表現Ⅱ」の内容などを参照するものとする。

第7 エッセイライティングⅡ

1 目標

英語学習の特質を踏まえ、以下に示す、書くことの領域において設定する

(9) 小論文（再掲あり）

(新設)

第3 英語表現

1 目標

英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成す

目標の実現を目指した指導を通して、第1款の(1)及び(2)に示す資質・能力を一体的に育成するとともに、その過程を通して、第1款の(3)に示す資質・能力を育成する。

#### (1) 書くこと

ア 日常的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、複数の資料を的確に活用し、多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて効果的に用いて、情報や考え、気持ちなどを、読み手を引きつけたり、説得したりできるよう、論理の構成や展開を工夫して詳しく伝える複数の段落から成る文章を書くことができるようにする。

イ 社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、複数の資料を的確に活用し、多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて効果的に用いて、意見や主張などを、読み手を引きつけたり、説得したりできるよう、幅広い視点から、論理の構成や展開を工夫して詳しく伝える複数の段落から成る文章を書くことができるようにする。

## 2 内容

[知識及び技能]

### (1) 英語の特徴やきまりに関する事項

「エッセイライティングⅠ」の2の(1)と同様に取り扱うものとする。

[思考力、判断力、表現力等]

### (2) 情報を整理しながら考えなどを形成し、英語で表現したり、伝え合ったりすることに関する事項

「エッセイライティングⅠ」の2の(2)に示す事項について、この科目の1に示す、書くことの領域における目標を達成するように取り扱うものとする。

### (3) 言語活動及び言語の働きに関する事項

#### ① 言語活動に関する事項

るとともに、事実や意見などを多様な観点から考察し、論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える能力を一層伸ばす。(再掲)

## 3 内容の取扱い

(1) 指導に当たっては、第2章第8節第5の「英語表現Ⅰ」及び第6の「英語表現Ⅱ」の内容等を参照し、必要に応じて、これらの科目の内容を発展、拡充させて取り扱うものとする。(再掲)

(2)に示す事項については、(1)に示す事項を活用して、例えば、次のような書くことの言語活動及び複数の領域を結び付けた統合的な言語活動を通して指導する。

ア 「エッセイライティングⅠ」の2の(3)の①に示す言語活動のうち、「エッセイライティングⅠ」における学習内容の定着を図るために必要なもの。

イ 書くこと

(ア) 日常的な話題について、複数のニュースや新聞記事などを聞いた読み手として、論点を整理した上で、読み手を引きつけたり、説得したりできるよう、それらを活用して情報や考え、気持ちなどを効果的な理由や根拠とともに詳しく伝える複数の段落を書く活動。また、書いた内容を読み合い、質疑応答をしたり、意見や感想を伝え合ったりする活動。

(イ) 社会的な話題について、複数のスピーチや講義、英文資料などを聞いたり読んだりして、論点を整理した上で、読み手を引きつけたり、説得したりできるよう、それらを活用して意見や主張などを複数の情報を整理、比較しながら、効果的な理由や根拠とともに詳しく伝える複数の段落を書く活動。また、書いた内容を読み合い、質疑応答をしたり、意見や感想を伝え合ったりする活動。

② 言語の働きに関する事項

「英語コミュニケーションⅠ」の2の(3)の②と同様に取り扱うものとする。

3 内容の取扱い

(1) 「エッセイライティングⅠ」の3の(1)と同様に取り扱うものとする。

(2) 指導に当たっては、「論理・表現Ⅱ」及び「論理・表現Ⅲ」の内容などを参照するものとする。

(9) 小論文（再掲）

(新設)

1 指導計画の作成に当たっては、小学校や中学校における指導との接続に留意しながら、次の事項に配慮するものとする。

(1) 単元など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、生徒の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにすること。その際、具体的な課題等を設定し、生徒が外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせながら、コミュニケーションの目的や場面、状況などを意識して活動を行い、英語の音声や語彙、表現、文法などの知識を五つの領域（「ディベート・ディスカッションⅠ」、「ディベート・ディスカッションⅡ」、「エッセイライティングⅠ」及び「エッセイライティングⅡ」においてはそれぞれの領域。3において同じ。）における実際のコミュニケーションにおいて活用する学習の充実を図ること。

(2) 英語に関する学科においては、「総合英語Ⅰ」及び「ディベート・ディスカッションⅠ」を原則として、全ての生徒に履修させること。

(3) 「総合英語Ⅱ」は「総合英語Ⅰ」又は「英語コミュニケーションⅠ」を履修した後に、「総合英語Ⅲ」は「総合英語Ⅱ」を履修した後に、「ディベート・ディスカッションⅡ」は「ディベート・ディスカッションⅠ」を履修した後に、「エッセイライティングⅡ」は「エッセイライティングⅠ」を履修した後に履修させることを原則とすること。

(4) 多様な生徒の実態に応じ、生徒の学習負担に配慮しながら、年次ごと及び科目ごとの目標を適切に定め、学校が定める卒業までの指導計画を通して十分に段階を踏みながら、英語科の目標の実現を図るようにすること。

(5) 実際に英語を使用して自分自身の考えを伝え合うなどの言語活動を行う際は、既習の語句や文構造、文法事項などの学習内容を繰り返し指導し定着を図ること。

(6) 生徒が英語に触れる機会を充実させるとともに、授業を実際のコミュニケーションの場面とするため、授業は英語で行うことを基本とする。その際、生徒の理解の程度に応じた英語を用いるようにすること。

(新設)

1 英語に関する学科の指導計画の作成に当たって、「総合英語」及び「異文化理解」については、原則として、すべての生徒に履修させるものとする。

(新設)

(新設)

2 内容の取扱いに当たっては、次の事項に配慮するものとする。

(2) 生徒の実態に応じて、多様な場面における言語活動を経験させながら、中学校や高等学校における学習内容を繰り返して指導し定着を図ること。

(3) 英語に関する学科の各科目については、その特質にかんがみ、生徒が英語に触れる機会を充実するとともに、授業を実際のコミュニケーションの場面とするため、授業は英語で行うことを基本とすること。その際、生徒



の理解の程度に応じた英語を用いるよう十分配慮すること。

(7) 言語能力の向上を図る観点から、言語活動などにおいて第2章に示す国語科と連携を図り、指導の効果を高めるとともに、日本語と英語の語彙や表現、論理の展開などの違いや共通点に気付かせ、その背景にある歴史や文化、習慣などに対する理解が深められるよう工夫をすること

(新設)

(8) 言語活動で扱う題材は、生徒の興味・関心に合ったものとし、第2章に示す国語科や地理歴史科、理科など、他の教科等で学習した内容と関連付けるなどして、英語を用いて課題解決を図る力を育成する工夫をすること。

(新設)

(9) 障害のある生徒などについては、学習活動を行う場合に生じる困難さに応じた指導内容や指導方法の工夫を計画的、組織的に行うこと。

(新設)

(10) 指導計画の作成や授業の実施に当たっては、ネイティブ・スピーカーや英語が堪能な地域人材などの協力を得る等、指導体制の充実を図るとともに、指導方法の工夫を行うこと。

(5) (略) また、ネイティブ・スピーカーなどの協力を得て行うティーム・ティーチングなどの授業を積極的に取り入れ、生徒のコミュニケーション能力を育成するとともに、国際理解を深めるようにすること。

## 2 内容の取扱いに当たっては、次の事項に配慮するものとする。

(1) 単に英語を日本語に、又は日本語を英語に置き換えるような指導とならないよう、各科目の内容の(1)に示す言語材料については、意味のある文脈でのコミュニケーションの中で繰り返し触れることを通して指導すること。また、生徒の発達の段階に応じて、聞いたり読んだりすることを通して意味を理解できるように指導すべき事項と、話したり書いたりして表現できるように指導すべき事項とがあることに留意すること。

(新設)

(2) 音声指導の補助として、必要に応じて発音表記を用いて指導することもできることに留意すること。

(新設)

(3) 文法事項の指導に当たっては、文法はコミュニケーションを支えるものであることを踏まえ、過度に文法的な正しさのみを強調したり、用語や用法の区別などの指導が中心となったりしないよう配慮し、使用する場面や伝えようとする内容と関連付けて整理するなど、実際のコミュニケーションにおいて活用できるよう、効果的な指導を工夫すること。

(新設)

(4) 現代の標準的な英語によること。ただし、様々な英語が国際的に広くコ

(新設)

コミュニケーションの手段として使われている実態にも配慮すること。

(5) 話すことや書くことの指導に当たっては、目的や場面、状況などに応じたやり取りや発表、文章などの具体例を示した上で、生徒がそれらを参考にしながら自分で表現できるよう留意すること。

(6) 中学校で身に付けた使い方を基礎として、辞書を効果的に活用できるようにすること。

(7) 生徒が発話する機会を増やすとともに、他者と協働する力を育成するため、ペア・ワーク、グループ・ワークなどの学習形態について適宜工夫すること。その際、他者とコミュニケーションを行うことに課題がある生徒については、個々の生徒の特性に応じて指導内容や指導方法を工夫すること。

(8) 生徒が身に付けるべき資質・能力や生徒の実態、教材の内容などに応じて、視聴覚教材やコンピュータ、情報通信ネットワーク、教育機器などを有効活用し、生徒の興味・関心をより高めるとともに、英語による情報の発信に慣れさせるために、キーボードを使って英文を入力するなどの活動を効果的に取り入れることにより、指導の効率化や言語活動の更なる充実を図るようにすること。

(9) 各単元や各時間の指導に当たっては、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などを設定し、言語活動を通して育成すべき資質・能力を明確に示すことにより、生徒が学習の見通しを立てたり、振り返ったりして、主体的、自律的に学習することができるようにすること。

3 教材については、次の事項に留意するものとする。

(1) 教材は、五つの領域別の言語活動及び複数の領域を結び付けた統合的な言語活動を通してコミュニケーションを図る資質・能力を総合的に育成するため、各科目の五つの領域別の目標と2に示す内容との関係について、単元など内容や時間のまとまりごとに各教材の中で明確に示すとともに、実際の言語の使用場面や言語の働きに十分に配慮した題材を取り上げるこ

(新設)

(新設)

(5) 各科目の指導に当たっては、指導方法や指導体制を工夫し、ペア・ワーク、グループ・ワークなどを適宜取り入れたり、視聴覚教材やコンピュータ、情報通信ネットワークなどを適宜指導に生かしたりすること。また、ネイティブ・スピーカーなどの協力を得て行うティーム・ティーチングなどの授業を積極的に取り入れ、生徒のコミュニケーション能力を育成するとともに、国際理解を深めるようにすること。(再掲)

(5) 各科目の指導に当たっては、指導方法や指導体制を工夫し、ペア・ワーク、グループ・ワークなどを適宜取り入れたり、視聴覚教材やコンピュータ、情報通信ネットワークなどを適宜指導に生かしたりすること。(略)(再掲)

(新設)

(新設)

と。その際、各科目の内容の(1)に示す文法事項などを中心とした構成とならないよう十分に留意し、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などを設定した上で、言語活動を通して育成すべき資質・能力を明確に示すこと。

(2) 英語を使用している人々を中心とする世界の人々や日本人の日常生活、風俗習慣、物語、地理、歴史、伝統文化、自然科学などに関するものの中から、生徒の発達の段階や興味・関心に即して適切な題材を効果的に取り上げるものとし、次の観点に配慮すること。

(ア) 多様な考え方に対する理解を深めさせ、公正な判断力を養い豊かな心情を育てるのに役立つこと。

(イ) 我が国の文化や、英語の背景にある文化に対する関心を高め、理解を深めようとする態度を養うのに役立つこと。

(ウ) 社会がグローバル化する中で、広い視野から国際理解を深め、国際社会と向き合うことが求められている我が国の一員としての自覚を高めるとともに、国際協調の精神を養うのに役立つこと。

(エ) 人間、社会、自然などについての考えを深めるのに役立つこと。

(4) 教材については、英語を通じてコミュニケーション能力を総合的に育成するため、各科目の目標に応じ、実際の言語の使用場面や言語の働きに十分配慮したものを取り上げるものとする。その際、英語を日常使用している人々を中心とする世界の人々及び日本人の日常生活、風俗習慣、物語、地理、歴史、伝統文化や自然科学などに関するものの中から、生徒の発達の段階及び興味・関心に即して適切な題材を変化をもたせて取り上げるものとし、次の観点に留意する必要があること。

ア 多様なものの見方や考え方を理解し、公正な判断力を養い豊かな心情を育てるのに役立つこと。

イ 外国や我が国の生活や文化についての理解を深めるとともに、言語や文化に対する関心を高め、これらを尊重する態度を育てるのに役立つこと。

ウ 広い視野から国際理解を深め、国際社会に生きる日本人としての自覚を高めるとともに、国際協調の精神を養うのに役立つこと。

(新設)